

# 社会科開始学年におけるヒストリー学習・メタヒストリー学習の構成 —小3「市の様子の移り変わり」をいかして—

A Learning Unit for Beginning of History Studies and Meta-History Studies  
in Elementary School Social Studies Education:  
Enhancing the Value of 'Changes in Our Community' (3rd Grade)

服部 一秀\*    神戸 博貴\*\*    菊島 咲\*\*  
HATTORI Kazuhide    KOBE Hiroki    KIKUSHIMA Saki

**要約**：本稿は、2017年告示の小学校学習指導要領に基づく中学年社会科教育の脈絡において、メタヒストリー学習をどうスタートさせることができるか、第3学年の内容(4)「市の様子の移り変わり」の単元開発によって明らかにしようとするものである。社会科開始学年において小学校学習指導要領にこたえつつ、さらに身のまわりの広義の歴史に対する疑問の眼を育むことができるようにするため、初発的なヒストリー学習・メタヒストリー学習の1つのモデルを甲府市内の小学校用の単元「わたしたちの市の現在・過去・未来」によって提示する。それは、以後の小中高におけるヒストリー学習にとっても、メタヒストリー学習にとっても、重要な基盤となる見方を育むものであり、第3学年の内容(4)「市の様子の移り変わり」を活かす／生かす学習である。

**キーワード**：「市の様子の移り変わり」、メタヒストリー学習、ヒストリー学習、小学校  
中学年、地域学習

## I はじめに

小学校中学年の社会科教育では、過去について取り扱うヒストリー学習だけでなく、歴史という過去に関する現在の表現について取り扱うメタヒストリー学習も、スタートさせる必要がある<sup>1)</sup>。それは児童が身のまわりの既存の「歴史を史料や過去そのものと区別し、事実に基づいているとは限らない現在の人為的な構築物と見なす見方」を学びとれるようにすることであり、そのためには「現在における過去の認識の手がかりとしての史料の見方」、「現在とは異なるもの、現在につながるものとしての過去の見方」の学習が前提となる<sup>2)</sup>。

そうであるならば、小学校中学年の歴史学習において単にメタヒストリー学習を導入するだけでは済まない。小学校中学年の歴史学習は、大凡、過去の見方の学習に特化しているからである<sup>3)</sup>。歴史の見方の学習は勿論のこと、史料の見方の学習さえ意図されていないのが、中学年の歴史学習である。このような現状は、メタヒストリー学習を難しくするだけでなく、ヒストリー学習のスタートとしても問題である。メタヒストリー学習を開始するには、その前提となるヒストリー学習も改善しなければならず、中学年の歴史学習そのものを再構築しなければならない。以後の小中高におけるヒストリー学習とメタヒストリー学習の何れにとっても重要な基盤となる見方を育むため

\* 生活社会教育講座

\*\* 山梨大学教育学部附属小学校

の再構築をねらうわけである。

小学校中学年においてヒストリー学習と結びつけてメタヒストリー学習を可能にする基本方略は、すでに服部（2020）において、ドイツの事実教授教科書の分析によって明らかにされている<sup>4)</sup>。そこで本稿では、2017年告示の小学校学習指導要領に基づく中学年社会科教育の脈絡において実際、ヒストリー学習とともにメタヒストリー学習をどうスタートさせることができるか、第3学年の内容(4)「市の様子の移り変わり」の単元開発を通して具体的に提示したい。最低基準としての小学校学習指導要領にこたえつつ、中学年におけるメタヒストリー学習の基本方略に従い、第3学年という社会科開始学年における実現化の可能性を明らかにすることが、本稿の課題である。

以下、Ⅱで、小学校中学年におけるメタヒストリー学習の基本方略について整理し、Ⅲで、小学校学習指導要領における「市の様子の移り変わり」のねらいや位置づけを把握する。その上で、Ⅳで、史料・過去・歴史の見方についての学習を可能にする1つのモデルとして、甲府市内の小学校用の単元「わたしたちの市の現在・過去・未来」の基本構成を示し、Ⅴで、その各パートにおける学習指導について説明しよう。

## Ⅱ 小学校中学年における初発的なメタヒストリー学習の基本方略

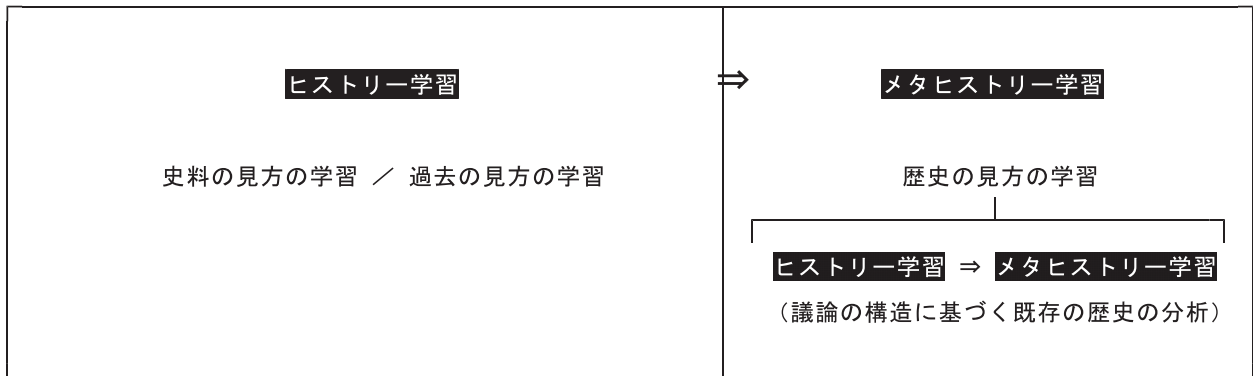
小学校中学年における初発的なメタヒストリー学習の基本方略について、服部（2020）に従って確認しておこう。その骨子は、次の5点にまとめられる<sup>5)</sup>。

- ①「身のまわりの広義の歴史を過去そのものと混同せず虚実を見極めようとする疑問の眼の育成を目指すこと」
- ②「疑問の眼をその根幹となって導く歴史の見方として、過去そのものとも過去の史料とも違って現在において人為的にうみだされているという見方を教育内容とすること」
- ③「児童が興味関心をもつことのできる過去の事柄と、その事柄について扱った身近な媒体によるフィクション性が高い広義の歴史とを教材として組み合わせ、再構築的なヒストリー学習を踏まえて脱構築的なメタ・ヒストリー学習へ進む一連の過程を構成すること」
- ④「そのような一連の過程に児童を導き入れるだけでなく、児童自身が広義の歴史の有り様を議論の構造に従って分析し、疑問視という向きあい方を遂行することで歴史の見方を身につけられるようにすること」
- ⑤「児童が広義の歴史を史料や過去そのものと区別して捉えられるよう」、また、「議論の構造に従って広義の歴史を分析し対象化するために、史料の見方や過去の見方を投入し活用できるよう」、「史料の見方と過去の見方の学習を先行させること、児童にとってアプローチできる身近で具体的な教材を取り上げ、児童自身による追究活動によって新たな見方を実践的に体得させること」

このような基本方略は、広義の歴史に対する疑問の眼を育むことを目指し、そのために図表1の通り、マクロとミクロの2つのレベルでヒストリー学習とメタヒストリー学習を結びつけることにより、史料や過去との区別に基づく歴史の見方を学びとれるようにするものである。

単元全体のマクロレベルでは、歴史の見方を学ぶメタヒストリー学習の前提として、史料の見方、過去の見方を学ぶヒストリー学習を先行させる。身のまわりの歴史を現在においてつくられているものとみなすことは、史料・過去・歴史の違いや関係に気づくことでもある。そこで、児童自身が追究活動によって史料・過去の見方を学びとるヒストリー学習を先行させ、既存の歴史の見方を学ぶメタヒストリー学習を準備する。

図表1 ヒストリー学習・メタヒストリー学習の二重構造



(服部一秀「小学校中学年社会科におけるメタ・ヒストリー学習の方略」に基づき、服部作成)

そのメタヒストリー学習を進めるマイクロレベルでも、ヒストリー学習を組み込む。児童が興味関心をもてる過去の事柄を扱うヒストリー学習と、その事柄を扱ったフィクション性が高い身のまわりの歴史を扱うメタヒストリー学習を連続化させる。それらによって議論の構造<sup>6)</sup>に基づく分析を協同的に関係づくることにより、児童自身が広義の歴史について取り組み、その人為的な構築性に気づくことができるようにする。過去の理解を踏まえて既存の歴史を分析することで疑問視する見方を学べるようにするわけである。

このような基本方略に従い、第3学年の(4)「市の様子の移り変わり」でヒストリー学習とともにメタヒストリー学習をどうスタートさせることができるだろうか。次章では第3学年の(4)「市の様子の移り変わり」のねらいや位置づけを確かめておこう。

### III 小学校社会科における小3「市の様子の移り変わり」

第3学年の社会科では、「自分たちの市を中心とした地域の社会生活」<sup>7)</sup>の学習が展開される。その1つの内容項目である(4)「市の様子の移り変わり」のねらいや位置づけについて確かめよう。

小学校学習指導要領において(4)「市の様子の移り変わり」で求められていることは、「交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目し」、「聞き取り調査をしたり地図などの資料で調べたりして、年表などにまとめること」、それらによって「市や人々の生活の様子を捉え、それらの変化を考え、表現すること」を通じて、「市や人々の生活の様子は、時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解すること」である<sup>8)</sup>。

このような(4)「市の様子の移り変わり」は、第3学年社会科における最後の項目である。(1)「身近な地域や市区町村の様子」という「地理的環境と人々の生活」中心の学習、(2)「地域に見られる生産や販売の仕事」や(3)「地域の安全を守る働き」という「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」中心の学習が先行する。それらによる地域の現状についての学習を踏まえて取り組む学習として、(4)「市の様子の移り変わり」という「歴史と人々の生活」中心の学習が位置づけられている<sup>9)</sup>。この学年の最後の項目という位置づけに基づけば、「自分たちの市を中心とした地域の社会生活」の“これまで”をわかる学習とともに、“これから”を考える学習も必要といえるだろう<sup>10)</sup>。

一方、小学校社会科の全体を見通すならば、(4)「市の様子の移り変わり」は「歴史と人々の生活」の学習の最初の項目でもある。そうであるならば、以後の小中高における歴史学習の基盤となる見方を児童に育むことが求められる。それは、過去の見方だけではなからう。史料の見方、歴史の見方も、この項目で学びとれるようにすることが肝要であろう。

(4)「市の様子の移り変わり」は「自分たちの市を中心とした地域の社会生活」について、「移り変わり」という観点から歴史的にアプローチすることを主眼とする項目である。それは第3学年の社会科における最後の項目であると同時に、小学校の社会科における「歴史と人々の生活」の学習の最初の項目でもある。児童が市の様子の現在と過去を捉えるだけでなく、それを踏まえて未来を考えることも可能にする必要があるし、過去の見方を学ぶだけでなく、史料の見方や歴史の見方を学ぶこともできるようにする必要がある。それらを解決できる単元「わたしたちの市の現在・過去・未来」へと考察をすすめよう。

#### Ⅳ 単元「わたしたちの市の現在・過去・未来」の基本構成

甲府市内の小学校用の単元「わたしたちの市の現在・過去・未来」の概要を図表2に示そう<sup>11)</sup>。

図表2 単元「わたしたちの市の現在・過去・未来」の概要

基本展開			各時の主な問い	主な内容	
パートⅠ (1時間)	単元問題の設定	地域の今についての先行の学習の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>甲府市についての2学期までの学習をふりかえろう。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     ◎甲府市の様子は、これまでにどのように変わってきたのだろうか、また、これからはどのように変えていくとよいだろうか。                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>過去の様子について知るために、何をたよりにするとよいだろうか、思いつくものを挙げてみましょう。</li> </ul>	現在の地域の様子の確認	過去の様子に関する身のまわりの様々な存在
パートⅡ (4時間)	単元問題の追究	地域のこれまでの変化(既存の有り様)についての学習 (ヒストリー学習)	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な大人から聞いた過去の生活の様子について発表しよう。(家庭等での聞き取りを踏まえての発表)</li> <li>身近な大人に聞いたことに間違いがないか確かめたり、もっと詳しく知ったり、もっと昔のことを知ったりするには、どうすればよいのだろうか。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     ○わたしたちの身のまわりの道具はどのように変わり、それとともに生活の様子はどのように変わってきたのだろうか。                 </div>	生活の様子の移り変わり(現在の生活の様子の特色)の認識	過去を知るための手がかりとしての史料の見方
<ul style="list-style-type: none"> <li>洗濯の道具はどのように変わってきたのだろうか。</li> <li>身のまわりの道具の変化とともに生活の様子はどのように変わってきたのだろうか。</li> <li>どうしてわたしたちは直接体験できない過去の様子を知ることができたのだろうか。</li> </ul>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>甲府市が誕生した約130年前にくらべて、市の人口が6倍にもなった理由は何だろうか、予想してみよう。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     ○甲府市誕生後の約130年間で、市の様子はどのように変わってきたのだろうか。                 </div>					
パートⅢ (8時間)			<ul style="list-style-type: none"> <li>土地の使われ方は、どのように変わってきたのだろうか。</li> <li>土地の使われ方の変化は、交通の変化と結びつきがあるのだろうか。</li> <li>土地の使われ方の変化は、公共施設の変化と結びつきがあるのだろうか。</li> <li>隣の地域では人口が増えているのに、住みやすい地域になってきたはずの甲府市の人口が平成期の途中から減ってきたのは、どういう理由からだろうか。</li> </ul>	地域の様子の移り変わり(現在の地域の様子の特色)の認識	現在と異なるもの、現在につながるものとしての過去の見方



社会科開始学年におけるヒストリー学習・メタヒストリー学習の構成

パートIV (5時間)	単元問題の追究	地域の現在・過去・未来の学習 (メタヒストリー学習)	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの学習をふりかえり、自分が大切だと思うことを中心に年表を作ろう。</li> <li>年表をどこかで2つの時期に分けるとしたら、どこで分けるとよいただろうか。</li> <li>過去と現在の甲府市の様子の「ちがひ」と「つながり」は何だろうか。</li> </ul>	これからの地域づくりの判断	現在において人為的につくられる表現としての歴史の見方
			<ul style="list-style-type: none"> <li>甲府市の500年記念事業とは何だろうか。</li> <li>○甲府市をより多くの人たちが住みたくなる地域、住みつづけたくなる地域、一度離れても戻りたくなる地域にしていくために、何が必要だろうか、甲府市が力を入れているこうふ開府・信玄公生誕500年記念事業を通して考えよう。</li> <li>この500年記念事業で多く取り上げられている武田信玄とは、誰だろうか。どのような姿をしていたのだろうか。</li> <li>500年記念事業のウェブサイトには描かれている武田信玄の姿にはどのような特色があるだろうか。</li> <li>500年記念事業で武田信玄を多く取り上げ、事実でないことも含めて格好良く描いているのは、どういう理由からなのだろうか。</li> <li>他にも、武田信玄など過去の事柄について現在の人が表現しているものが身のまわりにあるだろうか。</li> <li>500年記念事業は、甲府市を住みたくなる地域、住みつづけたくなる地域、一度離れても戻りたくなる地域にしていくために役立つだろうか。</li> <li>甲府市を住みたくなる地域、住みつづけたくなる地域、一度離れても戻りたくなる地域にしていくために一番力を入れなければならないことを、甲府市の7つの「元気スタイル」から選ぶとしたら、それは何だろうか。</li> </ul>		

(服部・神戸・菊島作成。なお、本図表において学習問題等を示すにあたって便宜上、小学校第3学年までに学習しない漢字も使用している。実際の授業では、学習問題等を板書する際、小学校第3学年までに学習する漢字のみを使用する。)

このような単元「わたしたちの市の現在・過去・未来」でも、小学校学習指導要領の第3学年の内容(4)に掲げられている知識・技能、思考力・判断力・表現力等を目指す。尤も、市の様子の移り変わりの学習のみに留めない。市の現在の様子を過去との対比や関連づけによって相対化し、地域づくりの今後の課題を意識することとともに、その課題に対応する市の取り組みを鵜呑みにせず吟味しようとすることも目指す。さらに、これらに加え、身のまわりの広義の歴史に対して疑問の眼をもつことを目指す。

中心内容は、過去と異なる、過去とつながる現在の市の様子の特色の認識と、地域づくりの取り組みの意義や課題の判断、そして、現在において過去について知るための手がかりとしての史料の見方、現在と異なるもの、現在につながるものとしての過去の見方、現在の人たちによってつくられる過去についての表現としての歴史の見方である。

そのために全体を4つのパートで構成する。第3学年での地域の今についての先行の学習を踏まえ、地域の“これまで”と“これから”についての学習を展開させる。それは図表3の通り、ヒストリー学習からメタヒストリー学習への移行と連動するようになっている。

まず、パートIでは、地域の今についての先行の学習を振り返った上で、「甲府市の様子は、これまでにどのように変わってきたのだろうか、また、これからはどのように変えていくとよいただろうか」という単元全体の学習問題を設定する。パートII～IVでは、この学習問題を追究していくことになる。

図表3 単元「わたしたちの市の現在・過去・未来」の基本展開

パートI	パートII・III		パートIV
単元問題の設定  地域の今 についての学習 (先行の学習の振り返り)	単元問題の追究  地域のこれまでの変化についての学習 (生活の変化の学習 地域の変化の学習)  ヒストリー学習 (史料についての見方 過去についての見方)		地域のこれからの変化についての学習  メタヒストリー学習 (歴史についての見方)

(服部作成)

パートIIでは、「わたしたちの身のまわりの道具はどのように変わり、それとともに生活の様子はどのように変わってきたのだろうか」という問いのもと、生活道具の変化に着目して生活の移り変わりに気づくとともに、それを通して史料の見方を学ぶ。パートIIIでは、「甲府市誕生後の130年間で、市の様子はどのように変わってきたのだろうか」という問いのもと、地域の移り変わりを探るとともに、それを通して過去の見方を学ぶ。このようにパートII・IIIは、地域のこれまでの変化すなわち既存の有り様について取り組む学習であり<sup>12)</sup>、ヒストリー学習である。

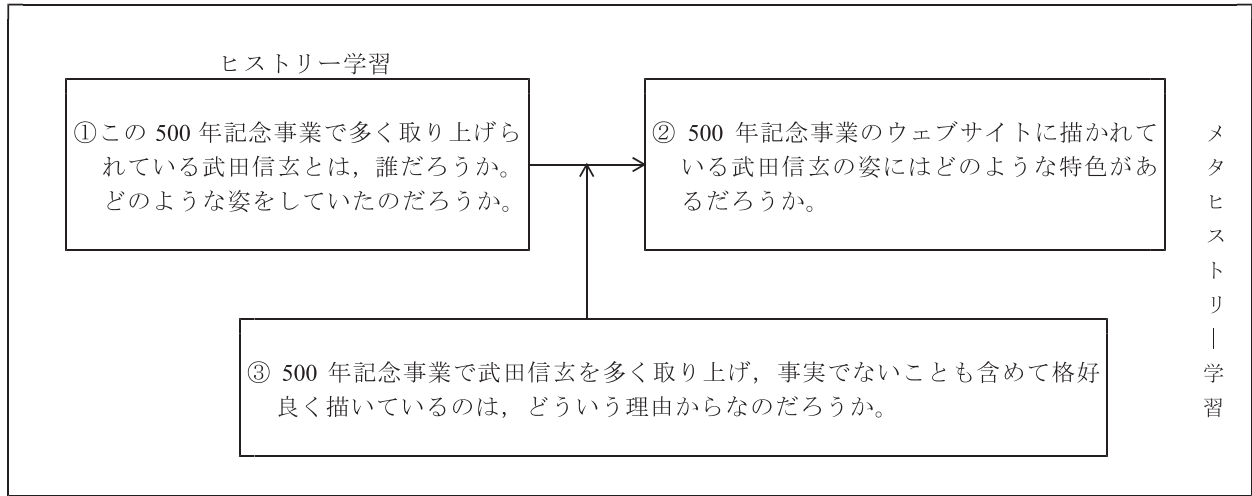
パートIVでは、「甲府市をより多くの人たちが住みたくなる地域、住みつづけたくなる地域、一度離れても戻りたくなる地域にしていくために、何が必要だろうか、甲府市が力を入れているこうふ開府・信玄公生誕500年記念事業を通して考えよう」という問いのもと、歴史を利用する地域づくりの事業を吟味し、地域づくりの取り組みの意義や課題について考え、それを通して過去を扱った既存の歴史の見方を学ぶ。このパートIVは、地域のこれからの変化すなわち新たな在り方について取り組む学習であり、ヒストリー学習を踏まえたメタヒストリー学習をその中核とする。

単元全体として、問題の設定・追究という展開をとり、地域の現状についての学習の振り返りから、ヒストリー学習に基づく地域のこれまでの変化の学習、メタヒストリー学習を中核とする地域のこれからの変化の学習へ進め、児童は地域の現在・過去・未来について取り組む。そうして、それらを通して、市の様子の移り変わりの認識、地域づくりの取り組みの意義や課題の判断とともに、史料の見方、過去の見方、歴史の見方を学んでいくわけである。

このような4パート構成において、メタヒストリー学習を行うのは、パートIVである。このパートIVにおける広義の歴史の分析は、図表4のように、ヒストリー学習とメタヒストリー学習によって議論の構造に基づく分析を可能にするものである。

このパートIVでは、①「この500年記念事業で多く取り上げられている武田信玄とは、誰だろうか。どのような姿をしていたのだろうか」という問いにより、武田信玄の姿について、肖像画等の史料から何がわかり、何がわからないかをつかむ。その上で、②「500年記念事業のウェブサイトには描かれている武田信玄の姿にはどのような特色があるだろうか」という問いにより、①の問いに従って把握したことを踏まえ、甲府市のこうふ開府・信玄公生誕500年記念事業のウェブサイト<sup>13)</sup>における武田信玄の描き方を特色づける。そうして、③「500年記念事業で武田信玄を多く取り上

図表4 パートIVにおける議論の構造に基づく広義の歴史の分析



(服部作成)

げ、事実でないことも含めて格好良く描いているのは、どういう理由からなのだろうか」という問いにより、事業のねらいと結びつけつつ、武田信玄の描き方の理由を考える。

このように①のヒストリー学習を踏まえた②③というメタヒストリー学習により、議論の構造に基づく分析を導き、児童が武田信玄の表現が現在の人によって意図をもってつくられていることに気づくことができるようにする。また、「他にも、武田信玄など過去の事柄について現在の人が表現しているものが身のまわりにあるだろうか」と問いかけ、そのような見方を用いて身のまわりの他の既存の歴史に意識を向けてみるように促す。さらに、このような500年記念事業における身近な既存の歴史の分析を踏まえ、このパートIVでは500年記念事業の点検などを通して地域の新たな在り方についての学習を展開していく。

## V 単元「わたしたちの市の現在・過去・未来」の各パートにおける学習指導

「わたしたちの市の現在・過去・未来」のパートIからパートIVまでの各パートにおける学習指導について順次、説明しよう。

### 1. パートIにおける学習指導

パートI（第1時）における学習指導について、教師の主な発問・指示と児童の考察内容によって示したものが、図表5である。

図表5 パートIの概要

時	主な発問・指示	主な考察内容
第1時	<p>甲府市についての2学期までの学習をふりかえろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「市の様子」の学習では、どんなことを学びましたか。</li> <li>・「地域に見られる生産や販売の仕事」の学習では、どんなことを学びましたか。</li> <li>・「地域の安全を守る働き」の学習では、どんなことを学びましたか。</li> </ul> <p>・甲府市の現在の様子は過去も同じだったでしょうか、未来も同じままでしょうか、どう思いますか。</p>	<p>地域の現在の様子の確認（第3学年における先行の学習の振り返り）</p> <p>地域の過去の様子と未来の様子の想像</p>

<p>◎甲府市の様子は、これまでにどのように変わってきたのだろうか、また、これからはどのように変えていくとよいだろうか。</p>	
<p>・まずは、これまでにどのように変わってきたかを追究していきましょう。過去の様子について知るために、何をたよりにするとよいだろうか、思いつくものを挙げてみましょう。</p>	<p>過去について知るための手がかりの予想</p>

(服部・神戸・菊島作成)

パートⅠでは、「甲府市の様子は、これまでにどのように変わってきたのだろうか、また、これからはどのように変えていくとよいだろうか」という単元全体の学習問題を設定する。

そのために、最初に、先行の「市の様子」の学習、「地域に見られる生産や販売の仕事」の学習、「地域の安全を守る働き」の学習を振り返らせる。それらの学習で学んだ地域の現在の様子について確認させる。

その上で、地域の過去の様子と未来の様子を想像させ、単元全体の学習問題を設定する。これまでの変化について追究し、その後これからの変化について追究するという本単元の学習の見通しをもたせる。

最後に、これまでの変化についての追究を開始するにあたり、過去の様子について知るために何をたよりにするとよいか、フィクション性が高いものを含め、思いつくものを挙げさせる。その1つとして、その当時の様子を実際に体験・実見した人からの聞き取りという意見を引きだし、次時に向けて身近な大人が子どもであった頃の生活の様子をインタビューし、調査シートにまとめておくよう、児童に指示しておく。

## 2. パートⅡにおける学習指導

パートⅡ（第2時～第5時）における学習指導について、教師の主な発問・指示と児童の考察内容によって示したものが、図表6である。

図表6 パートⅡの概要

時	主な発問・指示	主な考察内容
第2時	<p>※事前に、身近な大人が子どもであった頃の生活の様子をインタビューし、調査シートにまとめておくよう、児童に指示しておく。</p> <p>身近な大人から聞いた過去の生活の様子について発表しよう。</p> <p>・過去の生活の様子をなかで、現在と違うことはありましたか。</p> <p>身近な大人に聞いたことに間違いがないか確かめたり、もっと詳しく知ったり、もっと昔のことを知ったりするには、どうすればよいだろうか。</p> <p>・この広告を見てください。これは、今から約70年前、1950年代前半（昭和20年代後半）の新聞に載っていたものです。これは何の広告ですか。誰に向けて、洗濯機のどういう良さを伝えようとしていますか。この広告から、その他に、どんなことが読み取れますか。</p> <p>・この写真を見てください。これは、今から約60年前、1950年代後半（昭和30年代前半）の写真です。この写真に洗濯機と一緒に写っている女性に吹き出しをつけるとしたら、どんなことを話すでしょうか。</p> <p>・過去の新聞の広告や過去の写真は、わたしたちにとってどんなことに役立ちましたか。</p> <p>・広告や写真により、洗濯板よりも便利だけど、現在とはずいぶん違うずっと以前の洗濯機、洗濯機が当たり前のようにある現在とは違う生活の様子について気づくことができましたね。皆さんはどんなことに興味や疑問を持ちましたか。</p>	<p>過去の生活の様子についてのインタビュー内容の紹介</p> <p>過去についてアプローチする手段の検討</p> <p>過去の洗濯道具の新聞広告・スナップ写真の読解</p> <p>史料の役割への着目</p> <p>新たな興味・疑問</p>



社会科開始学年におけるヒストリー学習・メタヒストリー学習の構成

	<p>○わたしたちの身のまわりの道具はどのように変わり、それとともに生活の様子はどのように変わってきたのだろうか。</p>	
第3時	<p>洗濯の道具はどのように変わってきたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ここに、前の時間に見た昭和20年代後半の洗濯機の広告から、現在の洗濯機の広告までの間の、別々の3つの時期の洗濯機の広告があります。これらの新聞広告を古い順に並びかえてみましょう。</li> <li>広告が載っている新聞の発行日を見て、順序を確かめましょう。</li> <li>それぞれの広告には、前の時期の洗濯機とくらべてどんな違いがあるとか、どんなところが良いとか書かれていますか。(昭和20年代後半とくらべて、昭和30年代前半の洗濯機はどうでしょうか。昭和30年代前半とくらべて、昭和30年代後半の洗濯機はどうでしょうか。昭和30年代後半とくらべて、昭和40年代の洗濯機はどうでしょうか。)</li> <li>以前の洗濯機とくらべると、現在の洗濯機にはどんな特徴がありますか。</li> <li>過去から現在までの洗濯の道具の変化について、変化のポイントを短い言葉で表すとすると、どんな言葉でまとめられるでしょうか。</li> </ul>	<p>各時期の新聞広告による洗濯道具の進化の読み取り</p> <p>進化の傾向性の解釈</p>
第4時	<ul style="list-style-type: none"> <li>壁にはった道具年表を見てください。洗濯の道具の移り変わりをどんな言葉にまとめたか、振り返ってみましょう。</li> </ul> <p>身のまわりの道具の変化とともに生活の様子はどのように変わってきたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>道具において、過去と現在で変わったことは何ですか。変わっていないこともありますか。道具を使う人たちの思いや道具を作る人たちの仕事への思いはどうでしょうか。</li> <li>生活の様子において、変わったことはありますか。変わっていないこともありますか。道具年表や身近な大人へのインタビューをもとに考えてみましょう。</li> <li>道具の変わったことや変わっていないことと、生活の様子が変わったことや変わっていないこととの間には、何かつながりがあるでしょうか。</li> <li>現在の生活の様子にはどんな特色があるでしょうか。</li> </ul>	<p>道具の変化の確認</p> <p>生活の変化の確認</p> <p>道具の変化と生活の変化の関連づけ</p> <p>現在の生活の特色づけ</p>
第5時	<p>どうしてわたしたちは直接体験できない過去の様子を知ることができたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの3時間の授業でわたしたちは、過去のことを知るためにどんなものをたよりにしてきたでしょうか。</li> <li>当時の様子を体験した人の話、当時の道具、当時の写真、当時の印刷物(新聞、新聞広告)には、どんな共通点がありますか。これらのものと、社会科の教科書や資料集にのっているイラストとは、何が違うでしょうか。</li> <li>過去のことを知ろう、確かめようとするわたしたちは、当時の様子を体験した人の話、当時の道具、当時の写真、当時の印刷物をどういうものとして利用したといえるでしょうか。</li> <li>どうしてわたしたちは1つだけでなく、いろいろな歴史資料(史料)を使ったのでしょうか。当時の様子を体験した人の話、当時の道具、当時の写真、当時の印刷物など、歴史資料(史料)を使ってもわからないことはあるでしょうか。</li> <li>皆さんの身のまわりにあるものの中で、100年後の人たちが現在の皆さんの様子を知るためにどんなものを歴史資料(史料)として利用しようか、予想してみましょう。</li> </ul>	<p>過去について知る上での史料の役割の検討</p> <p>過去について知る上での史料の限界の検討</p>

(神戸・服部・菊島作成)

パートⅡでは、「わたしたちの身のまわりの道具はどのように変わり、それとともに生活の様子はどのように変わってきたのだろうか」という問いのもと、地域における生活の様子の移り変わりについて追究させる。第2時でこの問いを立て、第3・4時で追究させ、第5時で振り返らせるとともに、史料の役割や限界について検討させる。

まず、第2時では、過去の生活の様子について知るための一つの手立てとして行った身近な大人へのインタビュー内容を紹介させた上で、それを確認・補足できる手段について考えさせる。そう

して、洗濯板との違いを強調している初期の洗濯機の新聞広告、自慢そうに洗濯機の横に立つ女性のスナップ写真<sup>14)</sup>を読み解かせることで、史料の役割に目を向けさせる。とともに、各自の興味や疑問について発表させ、パートⅡの問題を立てる。

第3時では、洗濯機の新聞広告の時間順による並びかえ、新聞広告による洗濯機の進化の読み取りに取り組みせ、それらを踏まえて現在の洗濯機の特徴を考えさせる。そうして、洗濯板から現在の洗濯機までの洗濯道具の変化を短い言葉で表現させる。

第4時では、教師が用意する道具年表、身近な大人へのインタビュー内容のシートなどをもとに、道具の変化、生活の変化について再確認させ、道具の変化と生活の変化とを関連づけさせる。そうして、過去とのちがいやつなかりを意識させつつ、現在の生活の様子を特色づけさせる。

最後の第5時では、生活の様子の移り変わりについて追究してきた以上の学習を振り返らせ、その中で自分たちが過去について知るためにたよりにしたものを挙げさせ、史料の役割と限界とについて検討させる。100年後の人たちが今の自分たちの様子を知るためにどんなものを史料として利用しそうかも予想させてみる<sup>15)</sup>。この時間では、第4時までの追究を踏まえ、過去について知る手がかりとしての史料の見方を持てるようにするわけである。

このようにパートⅡでは、「わたしたちの身のまわりの道具はどのように変わり、それとともに生活の様子はどのように変わってきたのだろうか」という問いのもと、児童が生活道具に着目して生活の移り変わりに気づくとともに、それを通して、過去について知るための手がかりとしての史料の見方を学ぶことができるよう指導する。

### 3. パートⅢにおける学習指導

パートⅢ（第6時～第13時）における教師の主な発問・指示と児童の考察内容は、図表7のようにまとめられる。

図表7 パートⅢの概要

時	主な発問・指示	主な考察内容
第6時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・甲府市という市は何年に誕生したか、当時の新聞記事で確認してみましょう。</li> <li>・甲府市が誕生してから約130年がたち、甲府市はどう変わったと予想しますか。</li> <li>・本当に人口が増えたのでしょうか。現在の甲府市には、皆さんを含めて18万人以上の人たちが住んでいますが、甲府市が誕生した頃には何人くらいの人たちが住んでいたのでしょうか。</li> </ul>	人口の変化の確認
	<p>甲府市が誕生した約130年前にくらべて、市の人口が6倍にもなった理由は何だろうか、予想してみよう。</p>	人口の変化の理由の予想
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本当に甲府市の範囲が広がったのでしょうか。約130年前に誕生した頃の甲府市は実際、今よりもかなり狭い範囲でしたが、今のどの辺りだったのでしょうか。</li> <li>・現在までまわりの町や村と何度か合併を繰り返すことで甲府市の範囲はだんだんと広がってきましたが、それだけが人口の増加の理由なのでしょうか。人口の移り変わりのグラフと合併の年表を突き合わせて、確かめてみましょう。</li> <li>・現在の甲府市の範囲に住む人口が約130年前よりも増えた理由は何なのでしょうか。多くの人はどこにどこに住みたいと思うか、どこにどこならば多くの人住めるかを考えて、人口が増えた理由を予想してみましょう。</li> <li>・何をたよりにして確かめたり調べたりするとよいのでしょうか。</li> </ul>	市域の変化の確認
	<p>○甲府市誕生後の約130年間で、市の様子はどのように変わってきたのだろうか。</p>	市域変化以外の人口の変化の理由の予想

社会科開始学年における歴史学習・メタ歴史学習の構成

<p>第7時</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・甲府市内の同じ場所を写した過去と現在の写真を見くらべてください。これはどこでしょうか。どのように変化しましたか。</li> <li><b>土地の使われ方は、どのように変わってきたのだろうか。</b></li> <li>・これらの地図はいつ作られたものと書かれていますか。明治期に作られた古い地図と現在の新しい地図とを見くらべてみましょう。</li> <li>・わたしたちの学校がある辺りの土地の使われ方は変わったか、変わっていないか、どちらですか。</li> <li>・古い地図と現在の地図とを見くらべ、どの辺りで、何が、どうなったか、変化を見つけましょう。</li> <li>・土地の使われ方の変化と人口の増加とには、結びつきがあるのでしょうか。どんな結びつきがあるのでしょうか。</li> <li>・住宅の多い地区の広がり、店の集まる地区の広がり、工場の集まる地区の広がりにはどんな訳があったか、予想してみましょう。</li> </ul>	<p>新旧地図の対比による土地利用の変化の把握</p> <p>人口増加と土地利用の変化の関連性の解釈</p>
<p>第8時</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>土地の使われ方の変化は、交通の変化と結びつきがあるのだろうか。</b></li> <li>・明治期に作られた古い地図と現在の新しい甲府市の地図を見くらべ、交通の様子の変化を見つけましょう。</li> <li>・鉄道や大きな道路はいつできたものか、甲府市の年表で確認しましょう。</li> <li>・それらの鉄道や道路は、甲府市のどこを走り、市外のどことつながるものですか。</li> <li>・鉄道ができる前、道路ができる前は、人が移動したり物を運んだりするとき、どうしていたのでしょうか。</li> <li>・鉄道ができたことで、道路ができたことで、どういう人にとって何が良くなったでしょうか。それらによって土地の使われ方にどんな変化が生まれたでしょうか。</li> <li>・現在、駅から離れたところに多くの人住んでいますが、不便ではないのでしょうか。</li> <li>・甲府市の交通の変化と土地の使われ方の変化とには、どんな結びつきがあるのでしょうか。</li> </ul>	<p>新旧地図の対比による交通の変化の把握</p> <p>交通の変化と土地利用の変化（人口の増加）との関連性の解釈</p>
<p>第9時</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>土地の使われ方の変化は、公共施設の変化と結びつきがあるのだろうか。</b></li> <li>・わたしたちの小学校はいつ創られたのでしょうか。明治期から昭和前期までに創られたのでしょうか、それとも昭和後期から平成期までに創られたのでしょうか。学校に残る古い記録を見てみましょう。</li> <li>・明治期から昭和前期までに創られた小学校、昭和後期から平成期までに創られた小学校はそれぞれ、どの辺りに多いと思いますか。昭和前期の地図と平成期の地図を見くらべて、予想を確かめましょう。</li> <li>・それまで小学校がなかった辺りに新しく小学校が創られたのは、どういう訳でしょうか。開校を伝える当時の新聞記事をもとに、予想を確かめましょう。</li> <li>・小学校を創るためには多くのお金がかかるのに、それでも新しく創ったのは、小学校が人々にとってどういう施設だからでしょうか。</li> <li>・小学校を創るためには多くのお金がかかるのに、どうしてたくさん創ることができたのでしょうか。どういう施設だから税金で創ったのでしょうか。</li> <li>・住民皆にとって、なくてはならない公共施設として、他に何が挙げられますか。消防署・出張所の広がり方も小学校の場合と同じか、年表で確かめましょう。</li> <li>・甲府市の公共施設の変化と土地の使われ方の変化とには、どんな結びつきがあるのでしょうか。</li> <li>・甲府市の様子はどのように変化してきたとまとめられるのでしょうか。そのような変化と生活の様子の変化とには結びつきがあるのでしょうか。</li> </ul>	<p>昭和後期・平成期における周辺部での小学校の増加の把握</p> <p>小学校の増加の理由・条件の解釈</p> <p>他の公共施設の増加への応用</p> <p>公共施設の変化と土地利用の変化（人口の増加）との関連性の解釈 都市的な生活や様子の広がり</p>
<p>第10時</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・甲府市の人口は、1945年に戦争・空襲のために減少したこと以外、ずっと増え続けてきたのでしょうか。隣の市や町の人口はどうでしょうか。</li> <li><b>隣の地域では人口が増えているのに、住みやすい地域になってきたはずの甲府市の人口が平成期の途中から減ってきたのは、どういう理由からだろうか。</b></li> </ul>	<p>近年の人口減少の把握</p>

社会科開始学年におけるヒストリー学習・メタヒストリー学習の構成

	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成期の初め頃の古い地域副読本と現在の新しい地域副読本の小学校一覧を見くらべましょう。甲府市の中心部では、平成期にどういふ変化が生じ、そのために何が行われたということがわかりますか。</li> <li>中心部で小学校を統廃合しなければならないほどに子どもが減ってきた訳として、日本全体で子どもの数が減ってきたことに加え、子育てにあたっている大人や将来子育てにあたる若者でどこに住む人が増えてきたことが挙げられるでしょうか。</li> <li>中心部から離れた一帯、隣りの地域に移り住む人が増えてきたのはどういふ訳でしょうか。それらの辺りで平成期に何か変化があったのか、当時の新聞記事を読んでみましょう。</li> <li>中心部から離れた一帯、隣りの市や町に移り住む人が増えてきた訳は、平成期に大きなショッピングセンターが次々とできたことだけでしょうか。</li> <li>甲府市から東京など山梨県外に移り住む若者が多いのはどういふ訳でしょうか。</li> <li>甲府市の人口が今後も減っていくとしたら、甲府市に住むわたしたちにとって何か困ることがあるでしょうか。皆で話し合ってみましょう。</li> </ul>	<p>新旧の地域副読本の対比による中心部の少子化の把握</p> <p>周辺部・隣接市町への人口移動の理由の解釈（土地利用・交通・公共施設・生活の変化という視点の活用）</p> <p>人口減少の問題性の検討</p>
第11時	<p>これまでの学習をふりかえり、自分が大切だと思うことを中心に年表を作ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>甲府市の人口、市の範囲（市域）、土地の使われ方、交通、公共施設の移り変わりのそれぞれについて、これまで学習してきた事柄の中から自分が大切だと思うことを年表シートに書き入れましょう。</li> <li>年表シートに自分が書き入れた事柄の中で、すでに年表の中に書かれている道具の変化、生活の変化と関連すると考えられるものはありますか。</li> </ul>	<p>市の様子の移り変わりの年表作成</p>
第12時	<p>年表をどこかで2つの時期に分けるとしたら、どこで分けるとよいだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>もしも、現在の甲府市の様子にいたる上で一番重要な変化があったところで、この年表を2つの時期に分けるとしたら、どこで分けるとよいでしょうか。</li> <li>どこを分け目にしたか、クラスの皆の考えを聞いてみましょう。</li> <li>話し合いを参考にして、自分の考えを書きましょう。</li> </ul>	<p>時期区分による市の様子の移り変わりの解釈</p>
第13時	<p>過去と現在の甲府市の様子の「ちがひ」と「つながり」は何だろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>過去の甲府市の様子と現在の甲府市の様子には、どのような「ちがひ」を見つけられますか。</li> <li>過去の甲府市の様子と現在の甲府市の様子には、どのような「つながり」を見つけられますか。</li> <li>甲府市誕生後の約130年間で、市の様子はどのように変わってきたのだろうか、という問題について、どのように答えるとよいでしょうか。</li> </ul>	<p>過去と現在の様子のちがひとつながりの解釈</p> <p>地域の様子の移り変わりの解釈</p>

(神戸・服部・菊島作成)

パートⅢでは、「甲府市誕生後の約130年間で、市の様子はどのように変わってきたのだろうか」という問いのもと、地域の様子の移り変わりについて追究させる。第6時で、人口の変化に着目させることで、この問いを立てた後、第7～9時で、古い地図などの史料に基づき、土地の使われ方の変化、交通の変化、公共施設の変化という視点から、人口増加について追究させ、第10時ではそれらの諸視点の活用により、今度は近年の人口減少について追究させる。さらに、第11・12時では、地域の様子の移り変わりの年表作成と時期区分に取り組みさせる。最後に、以上を踏まえ、第13時で、過去と現在の地域の様子の「ちがひ」と「つながり」を見つけさせ、地域の様子の移り変わりをとらえさせる。

第6時では、甲府市が誕生した約130年前にくらべて市の人口が6倍にもなった理由を予想させた上で、合併による市域の拡大だけが人口増加の理由ではないことに気づかせる。そして、現在の甲府市の範囲に住む人口が増えた理由について、多くの人はどんなところに住みたいと思うか、どんなところならば多くの人が住めるかに留意して予想させ、このパートの問いを立てる。

第7時では、明治期の古い地図(拡大図)と現在の新しい地図(拡大図)との対比により、土地の



使われ方の変化を把握させ、人口の増加と土地の使われ方の変化との関連性を解釈させる。そうして、住宅地区・商業地区・工業地区のそれぞれの広がり理由を予想させ、次時以降に向けての課題意識を喚起する。第8時では、明治期の古い地図(拡大図)と現在の新しい地図(拡大図)との対比により、交通の変化を把握させる。その上で、交通の変化と土地の使われ方の変化を関連づけさせる。第9時では、昭和前期の古い地図(拡大図)と平成期の新しい地図(拡大図)との対比により、小学校の増加を把握させ、その理由を考えさせる。そして、他の公共施設に応用させ、公共施設の変化と土地の使われ方の変化を関連づけさせる。第7時から学習を踏まえ、都市的な生活や様子が広がってきた変化についてとらえさせる。

第10時では、平成期の途中に始まる人口減少について追究させる。新旧の地域副読本(社会科副読本)の対比により、中心部における小学校の統廃合に気づかせ、周辺部・隣接市町への人口移動について扱う。郊外で相次いだ大型ショッピングセンターの建設について、当時の新聞記事<sup>16)</sup>によって紹介した上で、大型ショッピングセンターの建設だけが理由かどうかを問うことで、新聞記事も手がかりにしながら、土地利用・交通・公共施設・生活の変化という諸視点を活用して取り組ませる。さらに、人口の減少は問題なのか否か、何が問題なのかを考えさせる。

第11時では、甲府市の人口、市域、土地の使われ方、交通、公共施設を項目とする年表を作らせ、第12時では、もしも年表をどこかで2つの時期に分けるとしたらどこで分けるとよいかという時期区分に取り組ませることにより<sup>17)</sup>、地域の様子の移り変わりを解釈させる。

最後に、第13時では、過去と現在の地域の様子の「ちがひ」と「つながり」を見つけさせ、それを踏まえて改めて、地域の様子の移り変わりについてまとめさせる。

このようにパートⅢでは、「甲府市誕生後の130年間で、市の様子はどのように変わってきたのだろうか」という問いのもと、児童が史料を用いて地域の移り変わりを探るとともに、それを通して、現在と異なるもの、現在につながるものとしての過去の見方を学ぶことができるよう指導する。

#### 4. パートⅣにおける学習指導

パートⅣ(第14時～第18時)における教師の主な発問・指示と児童の考察内容は、図表8の通りである。

図表8 パートⅣの概要

時	主な発問・指示	主な考察内容
第14時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2021年元旦の新聞に載っている甲府市長のあいさつを読みましよう。甲府市長は何に力を入れていると述べていますか。</li> <li>甲府市の500年記念事業とは何だろうか。</li> <li>・何から数えて500年なのでしょう。</li> <li>・500年記念事業のイベントについて、チラシから読み取りましよう。</li> </ul> <p>○甲府市をより多くの人たちが住みたくなる地域、住みつけたくなる地域、一度離れても戻りたくなる地域にしていくために、何が必要だろうか、甲府市が力を入れているこうふ開府・信玄公誕生500年記念事業を通して考えよう。</p> <p>この500年記念事業で多く取り上げられている武田信玄とは、誰だろうか。どのような姿をしていたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・武田信玄とは、いつ頃の人物で、どんなことをした人物ですか。</li> <li>・今に残る武田信玄の肖像画や兜から、信玄の実際の姿についてわかること、わからないことを挙げましよう。</li> </ul>	<p>こうふ開府・信玄公誕生500年記念事業への着目</p> <p>武田信玄の肖像画等による人物像の把握</p>
第15時	<p>500年記念事業のウェブサイト描かれている武田信玄の姿にはどのような特色があるだろうか。</p>	

社会科開始学年におけるヒストリー学習・メタヒストリー学習の構成

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェブサイト「信玄公リターンズ」の登場人物は誰ですか。ウェブサイト「信玄公リターンズ」の武田信玄を見て、どんな印象をもちますか。</li> <li>・こちらの武田信玄が主人公のマンガと、こちらの別の人物が主人公のマンガとでは、同じ人物である武田信玄の描き方はどう違いますか。違う理由は何でしょうか。</li> <li>・ウェブサイト「信玄公リターンズ」の武田信玄は、どちらのマンガの信玄に近いですか。</li> <li>・一緒に描かれている真田幸村、猿飛佐助とは誰ですか。</li> <li>・ウェブサイト「信玄公リターンズ」での武田信玄の描き方には、どのような特色がありますか。</li> </ul>	<p>500年記念事業のウェブサイトにおける描き方への着目 マンガにおける相異なる描き方の発見</p> <p>ウェブサイトにおける描き方の特色理解</p>
第16時	<p>500年記念事業で武田信玄を多く取り上げ、事実でないことも含めて格好良く描いているのは、どういう理由からなのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・甲府や山梨の地域では過去にいろいろな人物が活躍したはずなのに、500年記念事業で武田信玄を多く取り上げるのは、どういう訳でしょうか。</li> <li>・ウェブサイト「信玄公リターンズ」の武田信玄を描いた作者は、武田信玄という人物を見たことがあるでしょうか。事実でないことも含めて武田信玄を格好良く描いているのは、どういう訳でしょうか。</li> <li>・武田信玄を多く取り上げ、格好良く描くことで、どういうことをねらっているのでしょうか。甲府市以外に住んでいる人たちに対するねらい、また、甲府市に住んでいる人たちに対するねらいを考えましょう。</li> </ul> <p>他にも、武田信玄など過去の事柄について現在の人が表現しているものが身のまわりにあるだろうか。思いつくものを挙げましょう。</p>	<p>500年記念事業における武田信玄の取り扱いのねらいの解釈</p> <p>身のまわりの広義の歴史の意識</p>
第17時	<p>500年記念事業は、甲府市を住みたくなる地域、住みつづけたくなる地域、一度離れても戻りたくなる地域にしていくために役立つだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・500年記念事業は観光客を引き寄せること、住民に誇りを持たせることのためにどれくらい役立つでしょうか。</li> <li>・あなたが東京など甲府市以外に住んでいるとしたら、500年記念事業のイベントで甲府市を訪れたことによって、甲府市に住みたいと思うでしょうか。</li> <li>・甲府市に今住んでいるあなたは、500年記念事業のイベントに参加することによって、甲府市にずっと住みつづけたいと思うでしょうか。</li> <li>・500年記念事業だけで甲府市を住みたくなる地域、住みつづけたくなる地域、一度離れても戻りたくなる地域にすることはできるでしょうか。500年記念事業はどのような点では役立ちそうですか、どのような点ではあまり役立ちそうではありませんか。</li> <li>・3年生のここまでの学習をもとに、甲府市を多くの人が住みたくなる地域、住みつづけたくなる地域、一度離れても戻りたくなる地域にしていくために大事なことは何だと思うか、挙げてみましょう。</li> </ul>	<p>地域づくりにとっての500年記念事業の意義・限界の評価</p> <p>地域づくりの課題の列挙</p>
第18時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・甲府市がどんな地域づくりを目指しているか、「こうふ未来創り重点戦略プロジェクト」で掲げられている7つの「元気スタイル」を見てみましょう。</li> </ul> <p>甲府市を住みたくなる地域、住みつづけたくなる地域、一度離れても戻りたくなる地域にしていくために一番力を入れなければならないことを、甲府市の7つの「元気スタイル」から選ぶとしたら、それは何だろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7つの「元気スタイル」のどれを一番として選ぶか、各自で考えた上で、皆で話し合しましょう。</li> <li>・最後に、これからの甲府市をどのように変化させていくとよいかについて、自分の考えを書きましょう。</li> </ul>	<p>地域づくりの諸課題の比較・関連づけによる今後目指すべき在り方の検討</p>

(菊島・服部・神戸作成)

パートⅣでは、パートⅡ・Ⅲでのこれまでの変化についての追究を踏まえ、これからの変化について考える。このパートの問いは、「甲府市をより多くの人たちが住みたくなる地域、住みつづけたくなる地域、一度離れても戻りたくなる地域にしていくために、何が必要だろうか、甲府市が力を入れているこうふ開府・信玄公生誕500年記念事業を通して考えよう」である。第14～16時で、武田信玄の取り扱いの分析を中心に500年記念事業について検討させ、第17・18時で地域づくりの課題について考えさせる。

第14時では、新たな地域づくりに向け、甲府市長の発言から500年記念事業に着目させ、このパートの問いを立てる。そして、この事業で多く扱われている武田信玄について取り上げ、武田信玄の姿について肖像画などの史料からわかることとわからないことを挙げさせる。第15時では、500年記念事業のウェブサイトでの武田信玄の描き方について取り上げ、複数の対照的な歴史マンガの表現<sup>18)</sup>を参考にしたり、史実とのズレに注目したりすることで特色づけさせる。第16時では、武田信玄を多く扱ったり、事実でないことも含めて格好良く描いたりしている理由を、500年記念事業のねらいに着目することで考えさせる。さらに、現在の人々が武田信玄など過去の事柄について表現している広義の歴史を列挙させ、身のまわりの既存の歴史に意識を向けさせる。

第17時では、甲府市を住みたくなる地域、住みつづけたくなる地域、一度離れても戻りたくなる地域にしていく上で500年記念事業が何に役立つか、何には役立たないかを吟味させ、評価づけさせる。その上で、ここまでの学習を踏まえて、よりよい地域づくりのための様々な課題を挙げさせる。最後に、第18時では、甲府市の「こうふ未来創り重点戦略プロジェクト」<sup>19)</sup>で掲げられている7つの「元気スタイル」から、一番力を入れるべきと考えるものを選び、話し合わせることにより、それらの比較や関連づけを促し、今後目指すべき地域の在り方について考えさせる。

このようにパートⅣでは、「甲府市をより多くの人たちが住みたくなる地域、住みつづけたくなる地域、一度離れも戻りたくなる地域にしていくために、何が必要だろうか、甲府市が力を入れているこうふ開府・信玄公生誕500年記念事業を通して考えよう」という問いのもと、児童が歴史を利用する地域づくりの事業を吟味し、地域づくりの取り組みの意義や課題について考え、それを通して、現在において人為的につくられる表現としての既存の歴史についての見方を学ぶことができるよう指導する。

## Ⅵ おわりに—小3「市の様子の移り変わり」を活かす／生かす

単元「わたしたちの市の現在・過去・未来」の構成は、一見すると、(4)「市の様子の移り変わり」の一般的な単元構成と似ているように見えるかもしれない。けれども、内実は大きく異なっている。この単元は、過去の見方を学ばせるだけでなく、その前提として史料の見方を学ばせる。さらに、史料・過去の見方を踏まえて、歴史の見方も学ばせるものである。

その鍵が、ヒストリー学習とメタヒストリー学習の二重構造である。地域の今を起点とし、生活道具の移り変わりに関する学習、地域の様子の移り変わりに関する学習、さらに新たな地域づくりに関する学習へ展開する単元全体、そして、歴史を利用する地域づくりの事業の分析吟味によって地域のこれからについて取り組む学習パートという両レベルで、ヒストリー学習とメタヒストリー学習を組み合わせる。単元全体としてヒストリー学習を前提にしてメタヒストリー学習へ移行させるとともに、身のまわりの既存の歴史を分析するメタヒストリー学習においてもヒストリー学習を組み込む。そのような単元構成によって、児童が地域の現在の様子を過去との対比や関連づけによって相対化し、地域づくりの今後の課題を意識すること、その課題に対応する地域の取り組みを吟味しようとするのと同時に、史料・過去・歴史の見方を学び、身のまわりの広義の歴史に対し

で疑問の眼をもつことができるようにしている。

このような単元「わたしたちの市の現在・過去・未来」は、中学年におけるメタ歴史学習の基本方略に従い、社会科開始学年である第3学年の内容(4)「市の様子の移り変わり」を活かす／生かすものである。最低基準としての学習指導要領にこたえつつ、(4)「市の様子の移り変わり」をメタ歴史学習のために活かす。と同時に、(4)「市の様子の移り変わり」をメタ歴史学習によって生かし、その教育的意義を拡大する。現行の学習指導要領に基づく小学校社会科教育の脈絡において、社会科開始学年でのメタ歴史学習の導入とその前提となる歴史学習の改善とを同時に可能にし、以後の小中高における歴史学習の重要な基盤となる史料・過去・歴史の見方を学ぶことができるようにする単元のモデルが、この「わたしたちの市の現在・過去・未来」である。

2017年告示の小学校学習指導要領に基づく中学年社会科教育において、メタ歴史学習を第3学年でスタートさせることは可能である。新たに第4学年における可能性を探ることがさらなる課題となろう。そうして、第6学年におけるメタ歴史学習に関する先行研究<sup>20)</sup>を再検討し、小学校社会科教育における歴史学習の再構築を進めていく必要がある。

## 註

1) 小学校中学年社会科におけるメタ歴史学習の必要性については、服部一秀「小学校中学年社会科におけるメタ・歴史学習の方略」、日本社会科教育学会『社会科教育研究』No.140, 2020年, pp. 53-54。

なお、メタ歴史学習の意義については、服部一秀「社会のなかの歴史に関するメタ歴史学習の意義」、社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第28号, 2016年, 及び、服部一秀「年代的カリキュラムにおいて過去の取り扱いの探究能力を育成する方略」、日本社会科教育学会『社会科教育研究』No.123, 2014年, p. 13, 他, 参照。

歴史学習とメタ歴史学習という対概念は、生島博「対抗イデオロギー教育としての歴史教育」、鳴門社会科教育学会『社会認識教育学研究』第18号, 2003年で用いられている。

2) 服部, 前掲論文「小学校中学年社会科におけるメタ・歴史学習の方略」, pp. 59-60。

3) 同上論文, p. 63。

なお、板垣英一・寺尾健夫「小学校における歴史入門学習」、福井大学教育学部附属教育実践研究指導センター『福井大学教育実践研究』第30号, 2005年では、過去について知るための手がかりとしての史料の見方の学習も含めた「歴史入門学習」が提案されている。とはいえ、現在において人為的につくられる表現としての歴史の見方の学習までは射程に入れられていない。

4) 服部, 前掲論文「小学校中学年社会科におけるメタ・歴史学習の方略」。

5) 同上論文, pp. 62-63。

6) 足立幸男『議論の論理』, 木鐸社, 1984年, 福澤一吉『議論のレッスン』, 日本放送出版協会, 2002年, 他, 参照

7) 文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編』, 日本文教出版, 2018年, p. 29。

8) 文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)』, 東洋館出版社, 2018年, p. 48。

9) 「地理的環境と人々の生活」の学習, 「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」の学習, 「歴史と人々の生活」の学習という整理については、文部科学省, 前掲書『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編』, p. 29。

10) 『小学校学習指導要領(平成29年告示)』でも、「内容の取扱い」において、人口についての取扱いに関して、「これからの市の発展について考えることができるよう配慮すること」が指示され



ている。文部科学省，前掲書『小学校学習指導要領（平成29年告示）』，p. 49。

- 11) 図表2は，神戸と菊島のそれぞれの授業実践を踏まえ，当初の計画に修正を加えたものである。後掲の図表5，図表6，図表7，図表8も同様である。
- 12) 現在使用されている教科書では，生活の様子の変り変わりの学習を地域の様子の変り変わりの学習に後続させる教科書と，生活の様子の変り変わりの学習を地域の様子の変り変わりの学習より先行させる教科書とがある。池野範男ほか『小学社会3年』（2019年検定済），日本文教出版，2020年，大石学ほか『小学社会3』（2019年検定済），教育出版，2020年，北俊夫ほか『新しい社会3』（2019年検定済），東京書籍，2020年，参照。  
本単元では，生活道具の変化に着目する生活の様子の変り変わりの学習において史料の見方を育むことをねらっており，生活の様子の変り変わりの学習を地域の様子の変り変わりの学習より先行させる。
- 13) 「信玄公リターンズ！」（甲府市，こうふ開府・信玄公生誕500年記念事業）。2021年10月現在，このウェブサイトは信玄公生誕500年記念事業において運営されている。（<https://www.kofushingen.jp/?status=skip> / 2021年10月26日最終確認）なお，「信玄公リターンズ！」で用いられている武田信玄などのイラストは，500年記念事業のイベントのチラシなどでも利用されている。  
こうふ開府・信玄公生誕500年記念事業とは，武田信玄の父武田信虎による開府より500年の2019年から，武田信玄の生誕より500年の2021年における甲府市の記念事業である。
- 14) 新聞広告「奥さま泣かせの……寒い冬のお洗濯！」（ナショナル家庭用電気洗濯機），『朝日新聞』1952年12月12日，写真「洗濯機がやってきた」，『甲府市の昭和』，樹林舎，2016年，p. 113。
- 15) この活動は，ドイツの歴史教科書『過去への旅ーザクセン・アンハルト州版 第5・6学年用』における導入単元「日常文化の一部としての歴史」の第2節「歴史においての手がかりー過去を証言するもの」における学習課題を参考にした。服部一秀「過去とその取り扱いの探究能力を育成する歴史教育の導入単元」，山梨大学教育学部附属教育実践総合センター『教育実践学研究』No.21，2016年，p. 96。
- 16) 「大型店，同一エリアに5店集中 ヨーカドー甲府昭和店あす開店」，『山梨日日新聞』2000年2月1日，「イオン甲府昭和オープン」，『山梨日日新聞』2011年3月18日。
- 17) このような活動については，岡崎誠司『社会科の発問ー“If…then”でどう変わるか』，明治図書，1995年などを参考にした。
- 18) 磯貝正義監修『市制百周年記念 まんが甲府の歴史[上] 古代ー近世編』，甲府市発行，1989年，pp. 44-45・52-53，加藤章・花ヶ前盛明監修『上越市発足三十周年記念事業 まんが上杉謙信ものがたり』，上越市発行，2001年，pp. 50-53・96-97。さらに，永原慶二監修『学習漫画日本の伝記 武田信玄』，集英社，1987年，pp. 92-95など，武田信玄と上杉謙信の両者が描かれているマンガを提示し，どちらが主人公のマンガであるかを考えさせることもできる。ここでのマンガの活用は，服部一秀・小笠原咲「小学校歴史授業における語りとしての歴史マンガの取り扱い」，山梨大学教育学部附属教育実践総合センター『教育実践学研究』No.23，2018年を踏まえた。
- 19) 甲府市「こうふ未来創り重点戦略プロジェクトNEXT市民に笑顔を！まちに元気を！2021年度版」，p. 4（<https://www.city.kofu.yamanashi.jp/sesaku/documents/next2021ver.pdf> / 2021年10月26日最終確認）
- 20) 服部一秀・浅尾和世・神戸博貴「身のまわりの歴史に関するメタヒストリー学習としての最終単元ー主題としての紙幣」，山梨大学教育学部附属教育実践総合センター『教育実践学研究』No.23，2018年，服部一秀・小笠原咲，前掲論文「小学校歴史授業における語りとしての歴史マンガの取り扱い」，佐藤貴史・服部一秀「小学校社会科におけるメタ・ヒストリー学習ー『県民の

日』の授業」, 山梨大学教育学部附属教育実践総合センター『教育実践学研究』No.25, 2020年。

#### 付記

本稿は, 社会系教科教育学会第32回研究発表大会(2021年2月13日～3月13日 オンライン開催)における服部一秀・神戸博貴・小笠原(現姓菊島)咲の研究発表に基づくものである。

なお, 本稿は, JSPS 科研費19K02836の助成による研究成果の一部である。